

# 磐城時報

日刊 九月 十夕  
編輯 石城郡平町新屋町十四  
印刷 磐城印刷所  
發行 磐城印刷所  
電話 一四〇  
郵政 郵便局特種郵便物  
定額 一月一元二角 三月三元五角 半年六元 一年十二元  
廣告料 一行十文字 一月一元 一月以上九折 三月以上八折 半年以上七折 一年以上六折  
A 日刊（日曜、祭日）休刊

## 最後の決定までは

### 更に一紛糾か

#### 第三校敷地問題

##### 二十三四日頃町會を開く

採みに採んだ平町第三小學校新倉町海氣館で内務省社會局保健  
築の件は委員會に於て敷地調査課荒川事務官臨席開會諸般の協  
の結果平町正内町（立町裏）七千七百打合せを午後四時開會し  
坪が時價一坪三圓で土盛工事其た、出席次の如し。  
他の費用を加算すると佃町（南  
町裏）に比べ約三萬五千圓の節  
約が出来るといふので委員會の  
意圖では正内町に決定したので  
二十三四日頃町會を招集し委員  
會の意圖を報告して協議する事  
になったが、立町裏と競争して  
ゐた南町方面有志は佃町が種々  
なる方面から見て敷地として最  
も適當の地であること々々確實な  
論據により立町裏説に反對する  
らしく、又委員會では立町に決  
定はしたものの、町會議員全員  
中には南町裏説を主張するもの  
相當多い見込みで最後の決定ま  
では一紛糾は免れまいと見ら  
れてゐる。

## 炭礦主會

四倉町で  
常盤炭礦に日立、四倉セメント  
を加へたる勞務及健康保險關係  
の打合せ協議會は過般來毎月各  
地持ち廻りて開會し來つたが六  
月例會は十八日午前十時から四  
場も十八日から最も繁忙を極め

## 夏井村で 爾共同出荷

夏井村では郡養蠶同業組合の幹  
旋により郡山片倉製糸會社との  
交渉成り今春爾の共同出荷組  
を組織し同社から社員出張十六  
日から三日間同村で春爾の取引  
節子姫が妃殿下として晴れのお  
興入れをする事に決定した秩父  
宮家の妃宮付き侍女に選ばれた  
についてしげ子史の實妹であ  
る平町高久病院院長高久忠氏夫人  
を訪ふて感想を叩けば、夫人、  
院長は交々語る。

## 春蠶の出廻り 最盛期に入る

### 本年石城の收繭高 九萬貫を豫想さる

石城地方に於ける春蠶出廻りは昨年の春繭取引取六千八百貫で  
十八日から最盛期に入り二十日あつたが本年は来る二十三日頃  
以後は漸次品薄になるであらうまで約一萬五千貫に達する見込  
が本年の掃立枚数は一萬七千枚みである、十八日の取引高は百  
で收繭總額は九萬貫即ち昨年六十七口、黃繭最高六圓七十錢  
の八萬貫に比べると一萬貫の増最低五圓五錢六圓十二錢、白  
收である、價格は昨年より多少高騰最高七圓七十一錢最低五圓五  
安價を示してゐるがそれでも九錢七圓十八錢で取引總額は黃  
萬貫とすれば一貫平均七圓と六圓五十七錢四百十文、價格  
の打合せ協議會は過般來毎月各  
地持ち廻りて開會し來つたが六  
月例會は十八日午前十時から四  
場も十八日から最も繁忙を極め

十九貫九百八十文二萬四千二百  
五十四圓六十五錢で本年の最盛  
を示した。

### 一家三名 チブスに陥る

石城郡湯本町字八仙入山炭礦長  
屋小泉敏（三三）及び同長女ちえ  
（五ツ）及び同所萩原富治（四二）  
の三名は腸チブスと決定十七日  
隔離されたが炭坑長屋のことゝ  
て蔓延の恐れあり平署で防疫を  
督勵中。

### 高久氏夫人の實妹が 秩父宮家の侍女

誠に畏れ多い事ですと  
高久氏夫妻語る

### 渡邊代書人 横領で告訴

二百圓を預つておいて  
理屈をつけて渡さぬ

### 一片の肉

慶大北郷生

### 磐炭軍借敗

地方の團

### 黒田技師 平局敷地實測

平町元石城郡役所に開會する筈  
で縣から石川統計主任來平した  
十九日、二十日兩日は農商に關  
するもの、二十一日には學務に  
關するものについて指示打合せ  
ある。

夏井村では郡養蠶同業組合の幹  
旋により郡山片倉製糸會社との  
交渉成り今春爾の共同出荷組  
を組織し同社から社員出張十六  
日から三日間同村で春爾の取引  
節子姫が妃殿下として晴れのお  
興入れをする事に決定した秩父  
宮家の妃宮付き侍女に選ばれた  
についてしげ子史の實妹であ  
る平町高久病院院長高久忠氏夫人  
を訪ふて感想を叩けば、夫人、  
院長は交々語る。

石城郡湯本町字八仙入山炭礦長  
屋小泉敏（三三）及び同長女ちえ  
（五ツ）及び同所萩原富治（四二）  
の三名は腸チブスと決定十七日  
隔離されたが炭坑長屋のことゝ  
て蔓延の恐れあり平署で防疫を  
督勵中。

誠に畏れ多い事ですと  
高久氏夫妻語る

二百圓を預つておいて  
理屈をつけて渡さぬ

慶大北郷生

地方の團

九時に及んで盛況裡に終了九時  
三十六分發にて夜半歸山したが  
兩者の得点は  
▲磐炭側 濱崎主將三勝一敗  
宮下三勝二敗、徳田三勝二敗  
若松二勝三敗、大方三勝二敗  
會田二勝三敗、筒井五敗  
▲水戸側 磯貝主將二勝三敗、  
丹羽三勝二敗、本多三勝、小  
沼三勝三敗、鈴木三勝二敗、  
山口二勝四敗、渡邊三勝二敗  
即ち水戸側の勝星十八に對し磐  
炭側は十六で二点の差である。

平町四丁目新築する平町郵便局  
の敷地六百坪は十八日仙臺通信  
局から黒田技師來平の上實測を  
なした。

平町高久病院院長高久忠氏夫人  
を訪ふて感想を叩けば、夫人、  
院長は交々語る。

誠に畏れ多い事ですと  
高久氏夫妻語る

二百圓を預つておいて  
理屈をつけて渡さぬ

慶大北郷生

地方の團

### 中堅農民 養成講習

大浦村で開く  
石城郡農會主催中堅農民養成講習會員五十余名は二十四日大山鈴木兩技師に引率され郡内の模範農會大浦村に至り左記の如く現地講習を行ふ。

大浦村農業倉庫、石城販賣利用組合四倉商市場、大浦村農會經營事情、同村普通農事視察

### 金を捲きあげ

情を通じた上  
栃木縣塩谷郡大宮村大字上澤生れ當時石城郡内郷村大字御所原海林五郎方高嶺長作(三八)は本年三月頃から磐城炭礦で夫源次郎が作業中死亡して千四百圓を給與された内郷村大字高坂木村キヨ(三四)が右現金の内から情

夫なる石川政之介に七百圓を使ひ込まれて逃走され悲觀してゐるを奇貨として親切に申し添ひ情を通じてゐたが本月二日キヨから政之介の居所を聞き知つて政之介の居所なる東京府下寺島町に至り俺はキヨの所持金の夫であるが君がキヨの所持金中から七百圓を持つて上京して来たといふのでキヨは三人の子供を抱へてどうする事も出来ず兄弟として見てゐる譯には行かないから都合出来るだけ金をやつてくれと甘圓を騙取植田町某旅館に働きの前記カヨも情を通じ更に政之介に宛てキヨの入用金であるから甘圓を電信爲替で送金せよと去る六日手紙を差出しなごしたのが様子子の森かき八日政之介がキヨを訪れた處から長作に一杯食

### 平テバートで 巻煙草入

輕便至極なもの  
平町駅前平テバートメントストアでは今回シガレットケース(巻煙草入)部を設けフワイバ製シガレットケースの福島縣下一手販賣所を引受け販賣することになった、小形(兩切入)十三錢、十錢、大形(口付煙草入)十五錢、十三錢で何れも麻の織維で作つたものでマツチ附き輕便至極なものである、煙草小賣店にも卸してあるが小賣店で未だ卸してゐない所では電話六番に申し込み次第店員が参上する由である。

はされた事が判りキヨは平署で長作からアノ金を取返して下さいとワツと泣いてゐた。

### 外科 門

入院隨意  
上田外科醫院  
南町電二九

### 共済病院

共済、存共、融金、易問、蓄貯、味趣、堅ト意誠

### 銀行の預金 買受け

姓名在社

### 銀行の預金 譲渡

姓名在社

### 農藝用消毒殺虫藥品

養蠶用寒暖計の御用は  
平町五丁目角 山野邊藥局

### 内科 小兒科

院長 醫學博士 難波 省三  
内科部長 栗野 憲三  
外科部長 醫學士 家 憲介  
婦人科部長 醫學士 五十嵐 雄二  
産婦人科部長 醫學士 澤 忠治  
藥局長 賀 本 孝平  
本院主事 賀 澤 忠治  
電話 七二番

### 商店向貸家

平町仲町十四番地新道通り  
新築二階建(一ヶ月三十圓)  
御希望により住宅に改造致します  
左記に御相談下さい  
平町鍛冶町(電話二四六番)

### 三井吳服店

エロイブレイン横断模様  
燃ゆる國民の赤誠を載せて  
太平洋横断飛行應援販賣  
人氣集ふ陳列へ 十九日より販賣

### 共済病院

入院自炊ノ便アリ 看護婦募集  
昭和三年五月  
主任 醫學博士 難波 治波  
診察 寫眞 深部 治療  
五月十日ヨリ診療開始  
最新 X 光線装置  
獨逸 シーメンス・ユニバーサル・ヘリオドル

### 麥帽子の快感を!!

新らしい  
わ子さん方のも種  
種新らしい形が陳  
列して有ります。

店商ヤルツに  
【番十四百話電】町平

### 水戸黄門 續篇

天地震駭の大作  
ヒルあります

特別大興行に付  
料入 特等大六〇小三〇  
一等大五〇小二〇  
二等大四〇小一〇

助之與西中影撮 一英隼井影撮 保富田池督監  
.....(演.....主).....

子梅木櫻江直見伏子蓉村梅子米井酒  
郎五部河郎太兒多上尾郎次傳内河大一嘉本山  
畫映作大季春活日 トスヤキータスル一オ舊新外

六電 館 平 設常級高 曜日士 開公日一廿月六